

自主事業の報告

■男女共同参画週間 パネル展&ミニ講演会

男女共同参画への意識や気づきを周知啓発するため、男女共同参画週間(6/23～6/29)に合わせてパネル展示及びミニ講演会を開催した。

「パネル展」



期間：令和3年6月21日(月)～6月25日(金)

場所：甲府市役所1階 市民活動室

内容：パネル展示

配布物：ふえあねす Vol.11～13 / ポケットティッシュ
女性総合相談室カード / クリアファイル

配布数：80部

① 男女共同参画の柱	② 推進委員会のあゆみ
③ 「日本女性会議」参加の記録と誘致までのあゆみ	④ 「日本女性会議」2021年 甲府市開催決定おめでとう
⑤ 物語あずまちゃん ～ジェンダーに敏感な視点で日常を見る～	⑥ クイズ de 知ろう「男女共同参画」
⑦ 推進委員会第6期活動の様子	⑧ ロールモデルセミナー
⑨ ワークライフバランス～見えない家事～	⑩ SDGs とこふ男女共同参画プラン
⑪ SDGs かるた	⑫ SDGs 私の宣言

「ミニ講演会」(パネル展内)



日時① 6月22日(火)12:25～12:50

日時② 6月23日(水)12:25～12:50

講演：「世界一わかりやすいSDGs」

講師：国連支援財団 副支部長

後藤貴仁さん(国連ID17-2006AM30028)

参加者：① 12名 ② 20名 計 32名

アンケート

- ・とても分かりやすい講演でよかった。
- ・もう少し時間的ゆとりがあって参加者と意見交換がしたかった。
- ・SDGs 世界一大切！ありがとうございます。
- ・専門的で分かりやすく素晴らしい講義でした。
- ・分かりやすかった。次回は友人を誘って参加したい。
- ・知らないことが多く大変勉強になりました。
- ・世界一わかりやすかったです。



■女性に対する暴力をなくす運動週間

「甲府市 DV 防止基本計画」に基づき暴力を許さない市民意識の醸成を図るため、甲府市役所本庁舎 1 階にパープルリボンツリーを設置し、賛同者に DV 防止のシンボルであるパープルリボンをかけていただく運動やパネル展を開催した。また、令和 3 年度は山梨県と甲府市が連携して行われたパープルライトアップと街頭啓発に参加した。

【令和 2 年度】「日本女性会議 2021 in 甲府」プレ大会展示会内にて



期間：令和 2 年 11 月 16 日（月）～ 12 月 19 日（土）

場所：甲府市役所 1 階 展示スペース

内容：推進委員会紹介パネル展示・パープルリボン運動（ツリー設置）

① 「日本女性会議」参加の記録と誘致までのあゆみ

② 推進委員会のあゆみ

③ 「日本女性会議」2021 年甲府市開催決定おめでとう

④ 推進委員会第 6 期の活動の様子

【令和 3 年度】パープルリボン運動 & パネル展



期間：令和 3 年 11 月 12 日（金）～ 11 月 25 日（木）

場所：甲府市役所 1 階 展示スペース

内容：7 期班活動パネル展示

パープルリボン運動（ツリー設置）

① 1 班 ワークライフバランス

② 2 班 SDGs

③ 3 班 DV

④ 4 班 DV

⑤ 「日本女性会議」参加の記録と誘致までのあゆみ

パープルライトアップ & 街頭啓発

○パープルライトアップ

期間：令和 3 年 11 月 12 日（金）～ 11 月 25 日（木）

場所：信玄公像前 / 県庁別館 / ココリ



○街頭啓発

日時：令和 3 年 11 月 12 日（金）17：45～18：30

場所：甲府駅南口

内容：DV 防止の呼びかけ・DV 防止啓発パンフレット配布

配布物：「甲府市女性総合相談室カード」

「デート DV ってなに？」「守ろう！性の健康」

「かいさぽももこ」「デート DV これって愛？」

配布数：300 部



■第7期活動報告会

例年、第3次こうふ男女共同参画プランに基づき男女がお互いを尊重し、誰もが個性を発揮できる男女共同参画社会の実現を目指した啓発事業として、また、甲府市男女共同参画推進委員の活動報告の場として、「甲府市男女共同参画フォーラム」を開催してまいりましたが、今年度は「日本女性会議 2021 in 甲府」大会がオンライン開催されたことから、令和4年2月7日に「第7期 甲府市男女共同参画推進委員会 活動報告会」を開催する予定でした。

この日のために、発表パネルの作成や群読の練習、班ごと及び全体会でのリハーサルの開催など、意欲的に取り組んでまいりました。しかしながら、令和4年1月末の急激なコロナ感染拡大により、推進委員や参加者の皆さんの健康を第一に考え、やむを得ず、中止といたしました。

【予定していた内容】

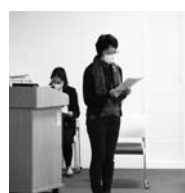
甲府市男女共同参画都市宣言文の群読

甲府市男女共同参画推進委員会活動報告

出前講座「ジェンダーに敏感な視点で日常を見る」

「日本女性会議 2021 in 甲府」第2分科会報告

【全体のリハーサルの様子】



司会の関委員



7期活動報告
小田切副委員長

【班ごとのリハーサルの様子】

1 班

ワーク・ライフ
バランス



2 班

SDGs



3 班

DV



4 班

DV



日本女性会議誘致までのあゆみ

日本女性会議とは

日本女性会議は、1975年（昭和50年）の国連総会の理念である「平等・開発・平和」の基に定めた国連婦人の10年を記念し、1984年（昭和59年）に第一回大会が名古屋市で開催されて以来、男女共同参画社会の実現に向けた課題の解決策を探るとともに、参加者相互の交流の促進やネットワーク化を図ることを目的として開催されてきました。

この目的を基本理念とし、開催都市ごとに大会テーマやスローガンを掲げ、男女共同参画社会の実現を目指して活動している方々が集結します。

1984年に第1回大会が開催されて以来、甲府大会で38回目を迎えます。



「日本女性会議 2021 in 甲府」大会誘致までの 推進委員会のあゆみ

2017年 7月 日本女性会議誘致について初代委員長と現委員長が事務局に打診

2017年 11月 日本女性会議誘致についてのミーティング（仮）企画書作成

2017年 12月 日本女性会議について市民部長にプレゼンテーション

甲府市議会女性議員と意見交換

甲府市議会議員に日本女性会議について説明

2018年 1月 日本女性会議誘致について賛同者を募る

日本女性会議の誘致について副市長と意見交換



2018年 3月 日本女性会議の甲府大会早期実現について、市長に要望書提出

2018年 5月 2021年開催の日本女性会議誘致に向けて取り組むと市長より発表

2018年 6月 2021年日本女性会議開催都市として、愛知県刈谷市へ申請書提出

2018年 9月 2021年日本女性会議開催都市に、甲府市が決定したと愛知県刈谷市より
報告を受ける

2019年 6月 「日本女性会議 2021 in 甲府」実行委員会設立





「日本女性会議 2021 in 甲府」 大会開催

日本女性会議 2021 in 甲府は「未来へつなぐ まちづくりは人づくり～甲斐の国からともに～」を大会テーマに、2021年10月22日、23日にオンラインで開催されました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、インターネットによる参加のみの開催となりましたが、念願の甲府の地での開催に私達の心は躍りました。

大会 1 日目



アトラクション：日本航空高等学校太鼓隊

開 会 式：大会宣言、大会長・実行委員長あいさつ ほか

基 調 報 告：「すべての女性が輝く令和の社会へ」

発表者：内閣府男女共同参画局長 林伴子

シンポジウム：「日本女性会議 38 年目の総括と未来

～日本女性会議 2021 in 甲府からの提案～」

メインシンポジスト：上野千鶴子／コーディネーター：風間ふたば

シンポジスト：高橋雅子、八重澤美知子、藤井佐知子、山根真理

大会 2 日目

分科会 1

性の多様性

多様な性と家族、パートナーシップ

～コウノドリ作者と考える多様な生き方と制度～

分科会 2

ジェンダー・DV

ジェンダーと DV に敏感な視点で日常をみる

～ジェンダー平等は人権の問題。気づきが差別と暴力を終わらせる～

分科会 3

子どもの教育・子どもの貧困

It Takes a Village. “村じゅう みんなで”

～よそのボコも うちのボコ おらが村をこせえるじゃん～

分科会 4

ワークライフバランス

ダイバーシティ・インクルージョン働き方改革と男性の在り方

～新しい生活様式に、子育て介護の男女とも！役割を果たす今をつくろう～

分科会 5

女性活躍

女性が起業するワケ

～やりたいことをカタチに。その一歩を今～

分科会 6

女性活躍

これでいいのだ、私の人生。私がわたしの未来を創る。

～就職、結婚、生きる意味～

分科会 7

食育・農業

未来へつなげる「農業・食」の魅力。

～守り引き継ぐ山梨の宝～

分科会 8

環境

環境から考える地域の未来

～外国人住民・大学生がみつけた発見～

分科会 9

生涯活躍・健康

生まれてから死ぬまで地域でくらすために

～介護・福祉・医療・教育の連携でつくる未来～

分科会 10

生涯活躍・健康

“私らしく生きる”ためにあなたは？地域は？

～私らしく生きる人生設計の可能性～

**アトラクション：『チアアップやまなし☆シャイン☆』 & 『山梨学院大学』ダンスパフォーマンス
特別講演：「オリンピック・パラリンピックの意義とは～そのレガシーの発展と継承～」**

東京オリンピック・パラリンピック組織委員会会長 参議院議員 橋本聖子

分科会報告／閉会式：次期開催市倉吉市長あいさつ、バトンパスセレモニー、閉会宣言 ほか



「日本女性会議 2021 in 甲府」 大会を終えて

甲府市男女共同参画推進委員会委員長の天野光江さんが「日本女性会議 2021 in 甲府」実行委員会副委員長企画部会部会長、推進委員会副委員長の小田切進さんが総務部会委員、推進委員の小澤房子さんが実行委員会委員総務部会副部会長、矢崎真由美さんが実行委員会委員おもてなし部会副部会長として大役を果たしました。また、第2分科会（ジェンダー・DV）のパネリストとして小川はるみさんと中村京子さんが登壇されました。



天野 光江（日本女性会議実行委員会副委員長・企画部会部会長）

新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延し社会の在り方が大きく変わった今、草の根的に一年ごとに続いてきた日本女性会議の振り返りを甲府大会でできたことは素晴らしいことです。時代時代で女性達を取り巻く課題は違いますが根っこにあるものはジェンダー不平等の日本社会です。全ての人が生きやすい社会の実現にはジェンダー平等と発信し続ける事、ダメな事には「NO！」と声を上げる事です。



小澤 房子（日本女性会議実行委員会委員・総務部会副部会長）

皆々様の力で大成功となった日本女性会議甲府大会。男女共同参画の実現に向けて個の多様性を理解し合い、尊重・共感し合っていく社会づくりを目指すための意義、一足ずつ進歩し、個として理解し、対話の機会をもっと増やす時間が必要ではないでしょうか。そして住みよい社会になっていくことを願っています。甲府市で開催でき、学ぶ機会をいただき本当に良かったと思っています。



矢崎真由美（日本女性会議実行委員会委員・おもてなし部会副部会長）

おもてなし部会の一員として、「日本女性会議 2021 in 甲府」に参加させていただきました。リモート開催になり、残念ながら部会本来の役割を果たすことはできませんでしたが、貴重な体験でした。新型コロナウイルス感染症の影響で、先の見えない準備期間を経て開催された本大会は、男女共同参画社会の実現の推進力になると信じています。



小田切 進（総務部会委員）

2018年9月、今大会開催が正式に決定され、私たち推進委員会は第2分科会を任され、山内先生のご指導の元、メンバー全員が一致団結し、早くから話し合いを行い、充実した分科会になりました。大会はオンライン開催となったため、いくつかの分科会を視聴しましたが、コーディネーターとパネリストおよび運営メンバーとの意思疎通が出来ていないところや、男女共同参画の視点が不足していたところが見受けられたのは残念でした。



小川はるみ《第2分科会パネリスト》

やむを得ずオンライン開催になった第38回「日本女性会議 2021 in 甲府」が終わり、第2分科会「ジェンダー・DV」のテーマについて1年近く準備を重ねてきた推進委員チームがそれぞれ得た果実を生かす時がやってきました。

山梨や甲府の男女平等推進の気運が上がっている今こそ歩みを止めずに、「宿題」にとり組みたいと思います。



中村 京子《第2分科会パネリスト》

第2分科会のパネリストそれぞれが、自分の体験をもとに視聴者の学びに繋げる話ができ、またDVに関するお話は、全ての山梨県内の高校生に聞いてほしいと思えるような、自分を守るための大切な知識を得られる内容なので、この分科会内容を多くの方が何度も視聴できる仕組みが整備される事を強く願います。



「日本女性会議 2021 in 甲府」 第2分科会報告

「日本女性会議 2021 in 甲府」2日目に行われた10の分科会のうち、第2分科会「ジェンダー・DV」を甲府市男女共同参画推進委員メンバーで運営いたしました。

日本女性会議甲府大会の誘致決定は私たち推進委員がきっかけとなりました。全国各地で開催された日本女性会議を見てきたメンバーが在籍する唯一の分科会です。経験者が未経験者に日本女性会議や分科会とはどういうものかを伝えながら、2020年10月から約1年をかけて準備を行いました。

会議は月1ペースで行い（計13回）、模擬2回（2021年9月13日、9月27日）何度も話し合いと練習を重ね、本番収録（10月13日）、提言報告（10月23日）を無事終えました。



《コーディネーター》山内 幸雄
《パネリスト》望月 理子／小川はるみ／小池 英幸
中村 京子／三井久美子／
《企画部会》天野 光江
《総務部会》小田切 進
《運営リーダー》井尻真理子
《サブリーダー》酒井 大介
《メンバー》小林 清巳／五味 明美／清水 正
関 和美／山田千恵美

【第2分科会内容】

ジェンダーとDVに敏感な視点で日常をみる

～ジェンダー平等は人権の問題。気づきが差別と暴力を終わらせる～



第1部 「ジェンダーが生み出す差別の現実や課題」についての討議。

ディスカッションでは、パネリストの経験等を踏まえ、日常に潜んでいるジェンダーバイアスに気づくきっかけの提供。



第2部「ジェンダーが生み出す暴力であるDV・デートDVについての現状」内閣府等の統計資料を引用するとともに、ジェンダーDVに関わる具体的な事例等の紹介。

【本番収録の様子】



司会の小林委員



パネリストの方々



収録を見守る運営メンバー

【提言報告の内容】

（取組方針）

- ◆ DV は人権侵害であり、性暴力は犯罪であることの周知
- ◆ 身近に潜んでいるジェンダーバイアス、アンコンシャスバイアスの具現化
- ◆ 女性自身の主体的努力の必要性の周知
- ◆ 性暴力の加害者や被害者を生まないための予防啓発の拡充
- ◆ 性被害・性暴力の背景にある性差別意識の排除
- ◆ 人権を含めた包括的性教育の周知啓発

（未来の目指す姿）



ジェンダーが生み出す“差別・暴力”を
生ませない環境を創る



DV は“犯罪”だと
勇気をもって声をあげられる社会を創る

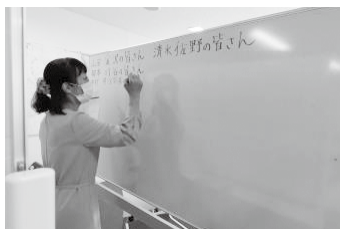


“私達は 誰一人 取り残さない”



大会2日目第2分科会の提言報告
をする運営リーダーの井尻委員

★直接お会いすることができなくなった参加者に向けてビデオメッセージを作成しました★



シナリオ作成中



ビデオに向かって視聴者に手を振る推進委員

【第2分科会を終えて】



井尻真理子《運営リーダー》

甲府で開催される日本女性会議に運営メンバーで参加できたことを光栄に思っています。経験、知識不足の私に、このような貴重な機会と大役をいただき、心から感謝しています。色々な方に教えていただきながら、無事終えることができました。色々な場面で助けてくださり、ありがとうございました。今回の学びと情熱を、後世に伝えられるように努力していきたいです。



酒井 大介《サブリーダー》

ジェンダーとDVという本来別個の分科会で取り扱う大きなテーマを一度に担わせていただいたことで、性差別意識がDVへとつながる構造を理解しやすく、解決に向けてできる事が具体的に見える分科会になりました。深刻な事態（赤信号）に到る前の兆候（黄信号）を見逃さずに対応すれば誰でもDV防止に取り組めることを、広く伝えていきたいと考えています。

小林 清巳《運営》

日本女性会議第2分科会の一員として参加できた事は、とても幸運な事でした。推進委員として学習し、それが活かされたことが良かったと思いますし、活動していく上での励みにもなりました。コロナ禍で形態は変わりましたが実施できた事。

「日本女性会議 2021 in 甲府」に携わったすべての方のご苦勞を感じます。ありがとうございました。

五味 明美《運営》

38回引き継がれてきた「日本女性会議」に関わることができ、貴重な経験をさせていただきました。地元甲府での開催で少しでも多くの方に「男女共同参画」の意味・目指す姿を知っていただく機会になったと思います。また、私たち推進委員も大会を通して学習・理解を深めることができました。

清水 正《運営》

山内先生、パネリストの皆さん、パワーポイントを使用しての分かりやすく丁寧な説明と皆さんのそれぞれの体験を通しての発言は重みがあり、全国の皆さんにその思いをお伝えすることができたと思います。皆さんに「ジェンダーとDVに敏感な視点で日常をみる」の認識が深まり、ジェンダー差別、DVが無くなることを願っています。

関 和美《運営》

日本女性会議を機に甲府市の男女共同参画を進めたいと思い、運営委員として関わらせていただきました。ジェンダー平等はよりよい社会を作るために必要な視点であり、それが大切であるという認識を持つこと、また、ジェンダー差別は日常の刷り込みが大きいので、まずそれに気づき、話していくことが重要であることを学びました。ジェンダー平等を実現するために、身近なところから自分にできる行動をしていきたいと思っています。

山田千恵美《運営》

日本女性会議が甲府で開催されたことにより、少しでも多くの方が「男女共同参画」「ジェンダー平等」ということを知る機会になったと思います。38回目の日本女性会議の運営メンバーとして参加し貴重な経験をさせて頂き感謝いたします。この経験を少しでも活かし、推進委員としてジェンダー平等を身近なところから発信できるように努力していきたいと思っています。

【第7分科会を終えて】

第7分科会（食育・農業）では女性が活躍できる分野として、『**未来へつなげる「農業・食」の魅力**』をテーマに農業委員で活躍している推進委員が運営メンバーとして参加しました。

落合 洋子《運営》

毎年、同じ作物に向き合い淡々と過ごしてまいりましたが、この分科会を通じて農業の未来とその果たす役割を再認識しました。

かねてより、新規就農者の手助けがしたいと思っておりましたが、なかなか現実には至っていませんでした。コーディネーターやパネリストの方々の活動を知り、まだまだ自分にも伸びしろがあると感じました。リモートでの開催でしたが、県外まで足を運ぶことのできない方々にもご参加いただけたことは本当に良かったと思います。

米山夫佐子《運営》

近年、農業は高齢化や担い手不足など、様々な問題を抱えていますが、真剣に考え、取り組むことにより魅力ある産業に発展していけると確信できた大会でした。

食べることは生きること。そして幸せを生み出す文化の担い手であること。など改めて考える機会を与えられたことに感謝しています。